

機関番号：14301

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2009

課題番号：18560629

研究課題名（和文）遼・金時代の都城造営に関する建築史的研究—とくに宮殿を中心として—

研究課題名（英文） Historical research on palace architecture in the capital cities in the Liao and Jin periods

研究代表者 福田 美穂 (Miho FUKUDA)

京都大学・人文科学研究所・非常勤講師

研究者番号：50379046

研究成果の概要（和文）：

本研究では遼金時代の宮殿、庭園に関する基本的な史料収集と検討を行った。遼、金、元は北方の征服王朝として一括されることが多く、とくに建築空間としてはとくに三者の違いを論じられてこなかった。しかしながら、三者はどうやら異なるらしい。資料的制約があったため、本研究では元朝をも研究対象に含めた。元の宮廷には曲水の装置や石のオブジェを配置するなど漢の庭園の影響も認められるが、それ以外の要素、すなわちテントを宮廷内に設営したこと（中国を統治する以前から保有していたモンゴル人の習慣と思われる）や、ウイグル起源のものとチベット仏教とを混在させた庭のあったことを明らかにした。

また、征服王朝は漢族からいかなる影響を受けたかを理解するためには、漢族の建築空間を知って比較しなければならないが、漢族の建築空間そのものの研究が不足している現状に堪がみ、漢族の王朝も視野に入れ、初歩的な研究を行った。漢代から唐代にかけての正殿の壁画についてその概略を明らかにした。宮殿壁画の題材にはふたつの系統があるらしく、正殿に儒教的題材を描くのは北朝の特徴らしいことを指摘した。

研究成果の概要（英文）：

This research project has achieved two of goals. One is that the research shows that three dynasties, Liao, Jin and Yuan which are so-called ‘dynasties of conquest’ seem to keep their own cultural elements in palace architecture, living space, gardens and capital cities although they come under the influence of Han-Chinese culture. Because there are not enough materials to research especially on living space of Liao and Jin, this research needed to include and to focus on the Yuan dynasty. In the palace of Yuan Dadu (capital city of the Yuan) there are some elements which come from their own cultural background such as tents which are erected in the garden in the Forbidden City, the small garden with buildings which seem to derive from the Uyghur and with the statute of Tibetan Buddhism although Mongolian royal family enjoy Han-Chinese culture such as stone garden and banquet with stream in the place complex.

The second is that the research shows that the transition in mural paintings of imperial palace in China from Han to Tang dynasty, and that there are two kinds of imperial mural paintings of palace. In the court there are subject matters of mural paintings derived from famous Confucian persons or stories. But there do not seem to be historical records which mention the mural paintings of the Confucian subject on the main hall except Northern dynasties. In order to understand the difference between the three dynasties (Liao, Jin and Yuan) and Han-China better, research on Han-China is also needed. That is because this research covers palace architecture of Han-Chinese.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	700,000	0	700,000

2007年度	600,000	180,000	780,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
総計	2,300,000	480,000	2,780,000

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学 建築史・意匠

キーワード：宮殿、都城、正殿、庭園、遼代、金代、元代

1. 研究開始当初の背景

宮殿、都市、庭園を中心とする建築空間の研究は、北方民族たる、遼、金、元——いわゆる征服王朝——については殆どない状況であった。北方民族の建築空間を解明することは、それ自体重要なテーマであると同時に、中国史の一部をなすものであるから、中国史の理解にとっても欠かせないはずである。

本研究の研究代表者は、すでに元朝についてはある程度史料を収集し研究してきた。そこで、遼朝、金朝の建築空間についても調べてみると、一般には遼、金、元を征服王朝として一括することが多いにもかかわらず、この三王朝は、ともに漢文化の影響を受けつつ、相互に異なる生活空間を作り出していたらしい。本研究を計画したゆえんである。

2. 研究の目的

本研究では、遼代および金代の宮殿・都市・庭園を中心とした建築空間の解明を目的とする。北方民族の征服王朝として、遼、金、元は一括されることが多かった。しかし、実際には異なる文化的背景を持ち、異なる建築空間を持っていたらしいことは、遺物や文献の端々に伺える。

漢文化の建築空間を理解するためにも、こうした北方民族の建築空間に対する理解は重要である。なぜなら、本研究によって北方民族の建築空間と中国のそれとを比較することが可能になり、合わせ鏡のようにして相互の特色の一端を理解できる可能性があるからである。

このように、本研究は、北方民族の建築空間そのものの理解だけでなく、中国史における漢、北方民族を含めた建築空間をも理解する基礎を提供できると考える。

3. 研究の方法

文献史料の収集と検討、考古発掘データの活用によって研究をすすめる。

本研究を行う以前から、本研究遂行者は元の宮殿を中心とする建築空間について、研究を行ってきた。そこで、本研究では当初遼代、金代の漢文史料の蒐集・整理、現地調査等を計画したのである。本研究を遂行してみると、資料の制約のため、方法を変更する必要を認

めた。そこで、より実り多い成果をあげるために、以下のような方法を採用した。

(1) 遼・金二王朝の他に、元朝の資料も蒐集しなおし、これまでの研究成果と合わせて、資料を再解釈する。

(2) 征服王朝が影響を受けた、漢族の建築空間について、基礎的な資料を蒐集、検討する。

4. 研究成果

征服王朝の建築空間に関しては、漢文化の要素を受け入れながら、それ以外、おそらくはモンゴルがもともと持っていた習慣や、中国統一以前に遭遇したウイグル以西の文化の要素の混在が見られることを明らかにした。具体的には、以下の通り。主要な宮殿の配置は金、元と繋がりがあるとされてきたが、元では、宮廷内でもテントを使用し続けたこと、西を重んずる空間観念を保ち続け、それは漢文化の木造宮殿を計画する際の配置にも影響したらしいこと、庭園を重んじ、宮殿を造営する場合には、庭とセットで計画されたこと、漢文化の伝統である曲水の装置を好み、石のオブジェを配する趣味もあったこと、しかしその一方で水辺にきらびやかなテントを設営しての宴会に興じていたこと、ウイグル式建築もしくはウイグル建築様式の要素のある建物とチベット仏教の要素とを混在させた独特の庭を宮廷に造営したこと、である。

一方、征服王朝に影響を与えた漢族の建築空間については、以下の二つの方向から基礎的な研究をすすめた。ひとつは、唐代の儀式書に記述される宮殿について考察すること。もうひとつは、宮殿に描かれた壁画を手がかりに、宮殿の性格を考えることである。前者については、儀式書に描かれる正殿は、必ずしも当時の現実を記述したものではなく、一種の理想の宮殿の記述であり、しかも現実の儀式自体も変遷があり、正殿は複数あるが、現実と儀式書とではここでも違いがあったらしいこと。後者については、宮殿の役割によって、壁画の題材を画き分けていたこと、北朝から正殿に儒教的な題材の壁画を描いたらしいが、南朝と唐代の正殿ではそうした題材を描かなかった可能性があることを指摘した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

- ① 福田美穂、「元朝の皇室が造営した寺院—チベット系要素と中国系要素の融合—」、『種智院大学研究紀要』第 9 号、2008 年 3 月、p. 15-30、査読有。

[学会発表] (計 11 件)

- ① Miho Fukuda, Imperial Audiences on Daily Basis in Tang Dynasty and the character of *Da Tang Kai yuan Li* 大唐開元禮, Workshop 'The Ceremonies of the Coming of Age in Palace' organized by Prof. Shigeo Kawamoto (supported by JSPS), 27th Feb., 2010, 那覇市沖縄産業支援センター会議室
- ② 福田美穂「中国における寺院建築と住宅建築」、日本建築学会 日本建築史小委員会平成 21 年度公開研究会「日本建築様式史の再構築」連続シンポジウム 2、2010 年 1 月 23 日、東京大学本郷キャンパス工学部 1 号館
- ③ 福田美穂「從中國建築史檢視元大都的宮殿與園林」、臺灣大学藝術史研究所演講活動、2009 年 11 月 3 日、臺灣大学藝術史研究所
- ④ Miho Fukuda, Enthronement Ceremony in China: a case of Wen zong 文宗 in Tang dynasty, Workshop 'The Ceremonies of the Coming of Age in Palace' organized by Prof. Shigeo Kawamoto (supported by JSPS), 5th Sept., 2009, Shen yang City (China)
- ⑤ 福田美穂、『『大唐開元禮』の宮殿儀式とその空間』、シンポジウム「東アジアの宮殿と宮殿儀式」(日本建築学会日本建築史小委員会主催)、2009 年 2 月 28 日、京都女子大学
- ⑥ Miho Fukuda, Wedding Ceremony of Emperor in *Da tang kai yuan li* 大唐開元禮, Seminar "Palace and Rituals in East Asia" organized by Prof. KAWAMOTO Shigeo of Kyoto Women's University (supported by the Japan Society for the Promotion), 21th September 2008, Daegu University (Korea)
- ⑦ Miho Fukuda, Reconstruction in the World Heritage Site in Japan: The Main Hall of the Shuri Castle 首里城, Workshop "Authenticity What?", 6th May 2008, the Institute of East Asian History, University of Heidelberg (Germany)

- ⑧ Miho Fukuda, Coming of Age Ceremony of crown prince in *Da tang kai yuan li* 大唐開元禮 (The Rites of the Great Tang Dynasty at the period of Kai yuan), Workshop 'The Ceremonies of the Coming of Age in Palace' organized by Prof. KAWAMOTO Shigeo of Kyoto Women's University (supported by the Japan Society for the Promotion), 2008. 2. 28., Hue (Vietnam)
- ⑨ 福田美穂、「四川・雲南古建築調査」、共同研究班「中国の生活空間と造形」(田中淡教授主宰)、京都大学人文科学研究所、2007 年 11 月 27 日
- ⑩ Miho Fukuda, Gardens and Palaces in the Yuan Period, 公開研究会「宮殿建築の空間と儀式に関する歴史的研究～アジアの宮殿建築と日本の宮殿建築との比較を中心に～」(基盤研究 B、研究代表者: 川本重雄教授)、京都女子大学、2007 年 3 月 3 日
- ⑪ 福田美穂、「文宗の奎章閣と順帝の宣文閣—元朝皇帝が建てた中国的建築の中のモンゴル」、共同研究班「中国の生活空間と造形」(田中淡教授主宰)、京都大学人文科学研究所、2006 年 6 月 13 日

[図書] (計 7 件)

- ① Miho Fukuda, Dismantling and reassembling (Kaitai-shūri) in Japan, (本の 1 章として 2009 年原稿採用決定、2012 年ハイデルベルク大学より出版予定)
- ② Miho Fukuda, Conservation of Traditional Buildings Law in the Yuan Period: Maintenance and Repair of Religious Buildings in *Yuan Dian zhang* 元典章 (Compendium of Statutes and Sub-statutes of the Yuan), (①と同じ本の 1 章として 2009 年原稿採用決定、2012 年ハイデルベルク大学より出版予定)
- ③ 福田美穂 (co-editor)、京都大学人文科学研究所、王禎『農書』農器図譜集訳注稿 (科学研究費研究成果報告書、研究代表者: 田中淡)、2010 年、189
- ④ 福田美穂 (執筆担当: 第 2 章)、京都女子大学家政学部建築史研究室、アジアの宮殿建築と儀式 (科学研究費研究成果報告書、研究代表者: 川本重雄) (執筆分のタイトル: 唐代の正殿と宮殿儀式—『大唐開元禮』に見る太極殿を中心に—)、2010 年、202 (うち執筆は 21~28)
- ⑤ 福田美穂 (執筆担当: 第 3 章の 5)、独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所、『平城宮第一次太極殿の復原に関する研究 3 彩色・金具』(執筆分のタイ

トル：中国の宮殿壁画)、2010年、148(うち執筆は58~67)

- ⑥ 福田美穂、京都女子大学、『中世アジアの住居と集落にかんする総合的研究』(平成18年度科研(特定領域)及び平成19年度科研(特別研究促進費)研究報告書、研究代表者：川本重雄 京都女子大学教授)、(執筆分のタイトル「中国『中世』住居史研究の現状と展望」)、2008年5月、76-89
- ⑦ 福田美穂、京都大学人文科学研究所科学史研究室、『伝統中国の庭園と生活空間』、(執筆分のタイトル「元大都の皇城における庭園」)、2007年6月、125-133

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

福田 美穂 (FUKUDA MIHO)

京都大学・人文科学研究所・非常勤講師

研究者番号：50379046

: